

CENTER FOR TOURISM RESEARCH

2018年度
年次報告書



和歌山大学

国際観光学研究センター

Contents 1	国際観光学研究センター(CTR)について.....	2
1.1.	ミッション.....	2
1.2.	機能と国際的側面.....	2
1.3.	運営体制.....	2
1.3.1.	組織図.....	2
1.3.2.	意思決定機関.....	3
1.3.3.	CTR研究員.....	4
1.3.4.	CTR研究ユニット.....	9
1.4.	活動内容.....	12
1.4.1.	研究活動.....	12
1.4.2.	研究・教育サポート.....	13
1.4.3.	広報、アウトリーチ、アドボカシー.....	14
2	活動報告.....	15
2.1.	研究活動.....	15
2.1.1.	研究員別業績一覧.....	15
2.1.2.	登録研究プロジェクト一覧.....	22
2.1.3.	短期研究員招へい制度.....	24
2.1.4.	CTR研究集会開催.....	25
2.1.5.	持続可能な開発目標(SDGs)推進.....	26
2.1.6.	研究叢書刊行.....	26
2.2.	研究・教育サポート.....	26
2.2.1.	研究相談会開催.....	26
2.2.2.	イベント開催支援.....	27
2.2.3.	観光学部授業科目の開講支援.....	27
2.2.4.	外部機関連携活動の支援・促進.....	28
2.2.5.	UNWTO. TedQual認証取得支援.....	31
2.2.6.	学内FD・SD活動支援.....	32
2.3.	広報、アウトリーチ、アドボカシー.....	33
2.3.1.	学会スポンサー参加.....	33
2.3.2.	ニュースレター発行.....	33
2.3.3.	外部機関との連携促進.....	33
2.3.4.	学会、イベント参加等.....	37
2.3.5.	セミナー等の企画・運営.....	39

1 国際観光学研究センター(CTR)について

1.1. ミッション

観光学研究の高度化を通じて、健全で持続可能な社会の発展に寄与する。

1.2. 機能と国際的側面

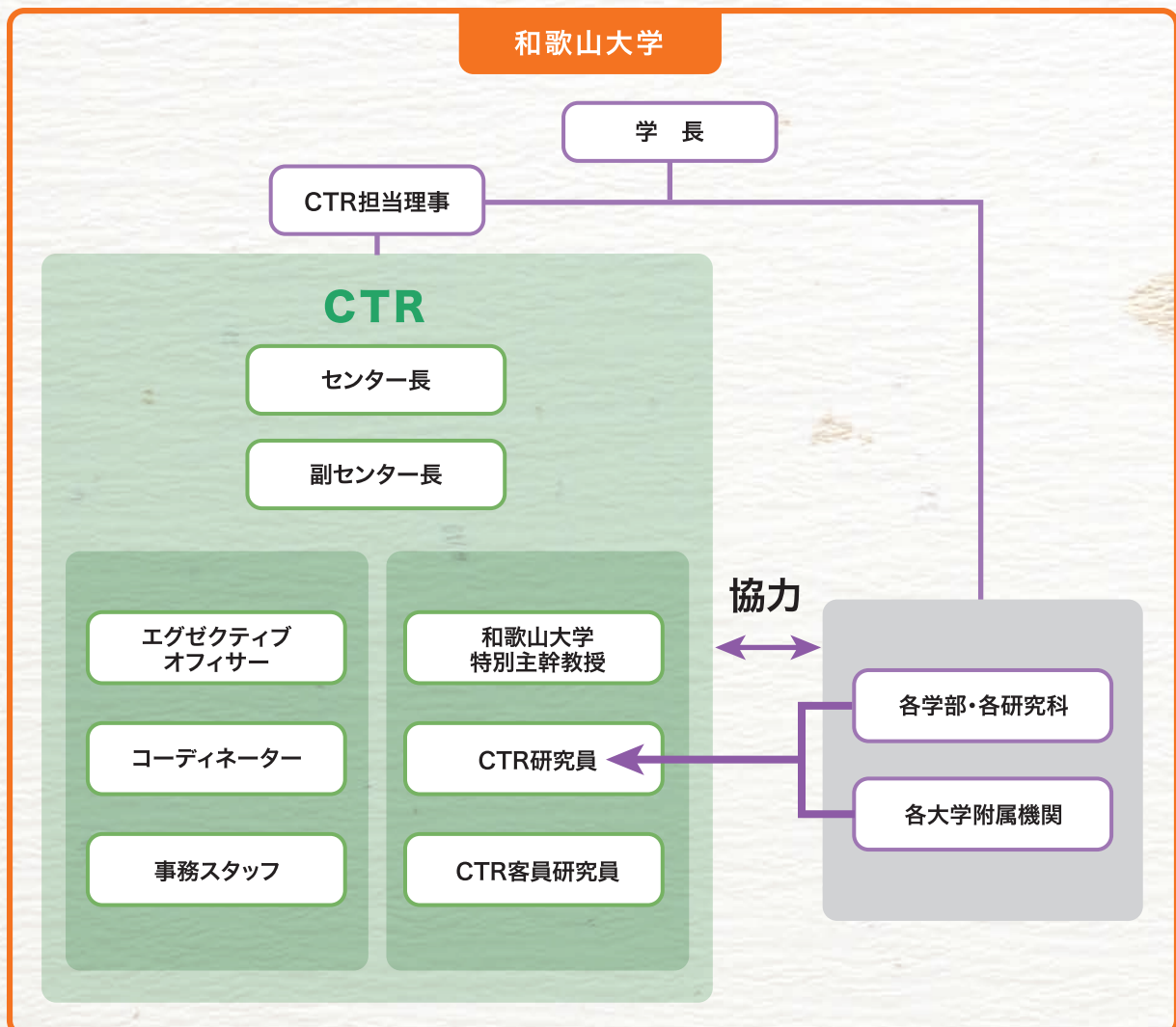
- 日本、アジア太平洋地域における観光学研究の牽引
- 国内外の主要な観光学研究機関との連携強化

1.3. 運営体制

1.3.1. 組織図

国際観光学研究センター(CTR)機構

2019年3月現在



運営管理組織



1.3.2. 意思決定機関

運営協議会	毎年の業績報告を回覧し意見聴取。重要事項について適宜意見聴取。
常任運営委員会	日常的な意思決定及び、教員評価・機関評価、テニュアトラック管理・評価。
研究委員会 ワーキンググループ	研究活動の戦略的企画・促進及び、研究活動全般に関する進捗管理機能確立準備。
推進協議会	各学部長等を交え全学組織として、業務推進にあたる重要事項協議。
ユニット会議	研究組織の基本フレーム。必要に応じて会議を開催し独自活動を展開。
実務担当者会議	実務担当者の業務確認・業務分担等の認識共有。

1.3.3. CTR研究員

CTR研究員 (計47名)	和歌山大学特別主幹教授	6名
	CTR専任研究員	3名
	CTR特任研究員	1名
	CTR併任研究員	観光学部25名、学内他学部等12名
CTR客員研究員 (計33名)	CTR特別主幹研究員	1名
	CTR客員特別研究員	29名
	CTR客員一般研究員	3名

研究員一覧

1.3.3.1. CTR研究員

<和歌山大学特別主幹教授>

(2019年3月現在)

HINCH, Thomas	和歌山大学 特別主幹教授、Professor, University of Alberta (Canada)
LEASK, Anna	和歌山大学 特別主幹教授、Professor, Edinburgh Napier University (UK)
MILLER, Graham	和歌山大学 特別主幹教授、国際観光学研究センター 副センター長、Professor, University of Surrey (UK)
RITCHIE, Brent W.	和歌山大学 特別主幹教授、Professor, The University of Queensland (Australia)
SHARPLEY, Richard	和歌山大学 特別主幹教授、国際観光学研究センター 副センター長、Professor, University of Central Lancashire (UK)
WALKER, Gordon J.	和歌山大学 特別主幹教授、Professor, University of Alberta (Canada)

<CTR専任研究員>

CHAKRABORTY, Abhik	国際観光学研究センター 講師
DOERING, Adam	国際観光学研究センター 准教授
KHAOKHRUEAMUANG, Amnaj	国際観光学研究センター 講師

<CTR特任研究員>

山田 良治	和歌山大学 名誉教授、国際観光学研究センター 特任教授、学長補佐
-------	----------------------------------

<CTR併任研究員>

秋山 演亮	協働教育センター(災害科学教育研究センター)教授
足立 基浩	経済学部 教授
伊藤 央二	観光学部 准教授
植田 淳子	食農総合研究所 特任助教
大井 達雄	観光学部 教授
大浦 由美	食農総合研究所 所長、観光学部 教授
大橋 直義	教育学部 准教授
尾久土 正己	観光学部 教授
小野 健吉	観光学部 教授
海津 一郎	教育学部 教授
加藤 久美	国際観光学研究センター センター長、観光学部 教授
木川 剛志	観光学部 准教授
岸上 光克	地域活性化総合センター 食農総合研究所 教授
北村 元成	観光学部 教授
佐々木 壮太郎	観光学部 教授
佐野 楓	観光学部 准教授
澤田 知樹	観光学部 准教授
竹田 明弘	観光学部 准教授
竹鼻 圭子	観光学部 教授
竹林 明	観光学部 教授
竹林 浩志	観光学部 准教授
辻 和良	食農総合研究所 特任教授
辻本 勝久	経済学部 教授
出口 竜也	観光学部 教授

富田 晃彦	教育学部 教授
永井 隼人	観光学部 講師
中串 孝志	観光学部 准教授
永瀬 節治	観光学部 准教授
東 悦子	紀州経済史文化史研究所 所長、観光学部 教授
彦次 佳	教育学部 准教授
藤田 武弘	国際観光学研究センター 副センター長、観光学部 教授
堀田 祐三子	観光学部 教授
八島 雄士	観光学部 教授
吉田 道代	観光学部 教授
吉野 孝	システム工学部 教授
吉村 旭輝	紀州経済史文化史研究所 特任准教授
米山 龍介	観光学部 教授

1.3.3.2. CTR客員研究員

<特別主幹研究員>

敬称略(2018年10月現在)

特別主幹研究員は、観光学の発展・確立に向けた包括性・普遍性の高い研究課題を有し、その裏付けとなる優れた研究実績を有するとともに、CTRを主たる活動拠点とする研究員をいう。

大橋 昭一	和歌山大学 名誉教授
-------	------------

<CTR客員特別研究員>

CTR客員特別研究員は、国内外の大学教員または一定の研究経験を有するものとし、CTR研究員との共同研究を行うもの、CTRでの研究プロジェクトへ参加するもの、もしくはCTRを拠点として観光学研究を行う必要があるものとする。

DRUMMOND, Damon	立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授
GÓMEZ-PUNZÓN, Jonathan	Project Coordinator, Tourism & SDG 2030 Platform, Global Business Development, UNWTO (Spain)

WEEKS, Donna	武蔵野大学 国際政治学 教授
今井 ひろこ	コムサポートオフィス 代表
大貫 美鈴	スペースアクセス株式会社 代表取締役 宇宙ビジネスコンサルタント
小形 正嗣	関西テレビ放送株式会社
小野 綾子	女子美術大学 助手(助教)
神田 孝治	立命館大学 文学部 教授
金 宰煜	広島大学大学院 社会科学研究科マネジメント専攻 講師
権 純珍	倉敷芸術科学大学 危機管理学部 教授
黒田 有彩	株式会社アンタレス 代表取締役
河野 慎太郎	南イリノイ大学 カーボンデール校 講師(US)
斎藤 望	株式会社パデコ
笹森 琴絵	JWDC (Japan Whale and Dolphin Watching Council) 代表、さかまた組 代表、ネーチャーガイド、写真家、酪農学園大学 客員研究員
杉山 幹夫	株式会社サン広告社 シニアプロデューサー
蘇 哲仁	Full Professor, Fu Jen Catholic University, Department of Restaurant, Hotel and Institutional Management (Taiwan)
田中 光敏	大阪芸術大学 映像学科 教授、映画監督、CMディレクター、クリエイターズユニオン 代表取締役
谷 俵太	iki design firm 代表
陳 意玲	国立東華大学 観光暨休閒遊憩學系 助理教授(Taiwan)
西尾 建	山口大学 経済学部 准教授
堀込 孝二	大阪国際大学 人間科学部 スポーツ行動学科 講師、特定非営利活動法人スポーツファンデーション 代表理事
牧野 恵美	東京理科大学 経営学部 准教授

宮口 直人	株式会社ビズユナイテッド 代表取締役
宮地 直樹	一般社団法人日本クリケット協会 事務局長
山口 志郎	流通科学大学 人間社会学部 准教授、和歌山大学大学院 観光学研究科 博士後期課程
山崎 直子	元JAXA宇宙飛行士、宇宙政策委員会委員(内閣府)
吉住 千亜紀	飯田市美術博物館
吉田 潔	M&R 地域マーケティング研究所 代表取締役
李 只香	九州共立大学 経済学部 教授

<CTR客員一般研究員>

CTR客員一般研究員は、原則として、国内外の博士後期課程学生もしくは博士後期課程を修了後引き続き研究を行うものとし、CTR研究員との共同研究を行うもの、CTRでの研究プロジェクトへ参加するもの、もしくはCTRを拠点として観光学研究を行う必要があるものとする。博士後期課程学生については、在籍大学の指導教員の許可を受ける必要がある。なお、当該研究により単位を付与することはない。

明山 文代	和歌山大学 観光学研究科 修士課程修了、元中学校教員
石川 茉耶	一般財団法人和歌山社会経済研究所
金 兌娟	大阪大学大学院 言語文化研究科 博士後期課程

1.3.4. CTR研究ユニット

CTRでは、10の研究ユニットを組織し、共同研究や研究会等の活動を推進できる環境を整備している。各ユニットは、研究プロジェクト及び当該専門領域を研究課題とする個人から構成されるオープンな研究集合体である。全体の枠組みとしては以下のように区分している。

- Key Research Unit: 観光学研究の主要な柱となるユニット
- Strategic Research Unit: CTRが課題と考える領域のユニット
- Cooperative Research Unit: 外部機関との密な連携を活動の中心に据えるユニット

CTR研究員はいずれかのユニットに属し、研究プロジェクトは複数のユニットにまたがることもある。

※客員研究員はユニットへの所属は必須ではない。

Key Research Units

Tourism & Sustainability

概要	サステナビリティは、その影響力及び要請が高まっている観光において優先的課題と見なされている。本ユニットでは、観光におけるサステナビリティの環境、社会文化、経済、マネジメントの側面をクリティカルに分析し、学術的及び社会的貢献をめざす。
リーダー	Graham Miller
サブリーダー	加藤 久美
メンバー	Abhik Chakraborty、Adam Doering、Donna Weeks、Amnaj Khaokhrueamuang、足立 基浩、大浦 由美、斎藤 望、笹森 琴絵、永瀬 節治、藤田 武弘

Tourism & Development

概要	政策、プランニング、ガバナンス、マネジメントなど観光開発に関する広範にわたる諸課題について、都市と農村、過去と現在及び多様な地理的範囲や社会、文化、経済的発展の様々な局面において調査・研究を行う。
リーダー	Richard Sharpley
サブリーダー	堀田 祐三子
メンバー	Amnaj Khaokhrueamuang、石川 茉耶、澤田 知樹

Tourism & Culture, Heritage

概要	文化遺産のマネジメント、保全及び開発に関する広い課題について、クリエイティブ・ツーリズムなどの新しいアプローチも取り入れつつ研究する。歴史的地域、建造環境や都市、農村や農業景観、自然環境、特徴ある文化が存続する地域及び無形遺産の保全や再生なども課題とする。
リーダー	Anna Leask
サブリーダー	小野 健吉
メンバー	Abhik Chakraborty、Amnaj Khaokhrueamuang、大橋 直義、海津 一郎、神田 孝治、澤田 知樹、竹鼻 圭子、永瀬 節治、東 悦子、吉田 道代、吉村 旭輝

Tourism Management

概要	観光目的地や観光ホスピタリティ産業を支援する新たな知識や知見の創造及び普及は、より効果的効率的な意思決定を実現する。知識及び知見は、競争優位を創出するための政策立案及び計画や戦略の策定に資するものである。本ユニットの研究課題としては、リスク・マネジメントや戦略的プランニング及びマネジメント、政策、マーケティング、経済、イノベーション、成果測定手法等が想定される。
リーダー	Brent W. Ritchie
サブリーダー	佐野 楓、永井 隼人
メンバー	Amnaj Khaokhrueamuang、大井 達雄、杉山 幹夫、竹田 明弘、竹林 浩志、出口 竜也、八島 雄士、吉田 潔、吉野 孝

Strategic Research Units

Tourism & Sports

概要	ツーリズムに関連した余暇・レジャー及びスポーツの理論構築やそれらの諸活動や行動に関する実用的意義を研究対象とする。特に、今日におけるスポーツや余暇・レジャーの社会、文化、地域に関する意義について研究する。間もなく開催予定のラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021といった大型イベントに関連するスポーツツーリズムやイベント・マネジメントについて調査・研究していく。
リーダー	Thomas Hinch
サブリーダー	Gordon J. Walker、伊藤 央二
メンバー	Adam Doering、河野 慎太郎、竹林 明、彦治 佳、山口 志郎

Tourism & Digital Media, Information

概要	IT、デジタルメディア及び新領域のビッグデータの利活用を優先的課題とし、観光統計によるトレンド、インパクト、動向分析やその応用に活用する。観光学部ドームシアター設備を活かした特徴あるコンテンツ開発も含む。
リーダー	尾久土 正己
サブリーダー	吉野 孝
メンバー	大井 達雄、小形 正嗣、木川 剛志、北村 元成、田中 光敏、中串 孝志、吉住 千亜紀

Tourism & Space, Mobility

概要	観光の基盤的理念としての空間、モビリティ研究に取り組む。「宇宙空間と観光」などの学際的分野にも取り組む。
リーダー	中串 孝志
サブリーダー	尾久土 正己
メンバー	秋山 演亮、大貫 美鈴、小野 綾子、黒田 有彩、辻本 勝久、富田 晃彦、永瀬 節治、山崎 直子、吉田 道代

Cooperative Research Units

Tourism Education

概要	教育の理念及び方法論、内容、カリキュラムデザインなど今日求められる高等観光教育の充実を図るべく、学際的視点からの研究促進を目的に、学部専任教員それぞれが多様な研究テーマでの競争的資金の獲得を実現している。とりわけ科学研究費補助金については、平成28年度、29年度に公開された研究分野別取得実績（観光学）において、全国第一位の実績を誇っている。区分変更によりランキング公表のなかった平成30年度も同様の実績水準を維持している。
リーダー	藤田 武弘
サブリーダー	八島 雄士
メンバー	足立 基浩、伊藤 央二、大井 達雄、大浦 由美、大橋 昭一、尾久土 正己、小野 健吉、海津 一朗、加藤 久美、木川 剛志、北村 元成、佐々木 壮太郎、佐野 楓、澤田 知樹、竹田 明弘、竹鼻 圭子、竹林 明、竹林 浩志、陳 意玲、辻本 勝久、出口 竜也、永井 隼人、中串 孝志、永瀬 節治、東 悦子、堀田 祐三子、山田 良治、吉田 道代、吉村 旭輝、米山 龍介

Tourism & Food, Agriculture

概要	持続可能な開発や保全などの先進的な視点から、地域の食と経済、食の安全、農業景観と経済などを探求する。また、本学「食農総合研究所」との連携により、和歌山地域をはじめ、日本全国の課題を対象として取り組む。
リーダー	岸上 光克
サブリーダー	植田 淳子
メンバー	Amnaj Khaokhrueamuang、植田 淳子、大浦 由美、竹鼻 圭子、辻 和良、藤田 武弘

Tourism & DMO

概要	観光目的地のマネジメント、サービス・ホスピタリティの向上及び経済的発展を推進する日本版DMOの普及促進について、主に産官学連携を重視して取り組む。多様な形態でのインバウンド観光の急増に伴う各地域に対する需要の増大は、人材育成の必要性和併せ、喫緊の課題である。
リーダー	八島 雄士
サブリーダー	竹林 明
メンバー	Adam Doering、Damon Drummond、木川 剛志、岸上 光克、金 宰煜、権 純珍、蘇 哲仁、谷 俵太、出口 竜也、永井 隼人、西尾 建、藤田 武弘、堀込 孝二、牧野 恵美、宮口 直人、宮地 直樹、李 只香

1.4. 活動内容

1.4.1. 研究活動

- 研究ユニットの活動:10ユニット
- 登録研究プロジェクト:30件
 - ◆ 科学研究費助成事業採択研究課題:17件
 - ◆ CTR助成研究プロジェクト:8件
 - ◆ CTR客員研究員研究プロジェクト:5件
- 短期研究員招へい制度:2名受け入れ
- 「CTR研究集会」開催
- 持続可能な開発目標(SDGs)推進
- 研究叢書刊行

1.4.2. 研究・教育サポート

●研究プロジェクト助成

- ◆ CTR研究員向け研究支援プロジェクト:8件

●研究資料整備

- ◆ CTR所有図書の出借・管理
- ◆ 主要図書(電子ジャーナル含む)整備

●研究相談会開催

●研究関連情報提供

●イベント開催支援

- ◆ 「日本国際観光映像祭」

●観光学部授業科目の開講支援

- ◆ 特別主幹教授・CTR専任スタッフによる授業科目開講支援:18科目

●外部機関連携活動の支援・促進

- ◆ 国連世界観光機関 (UNWTO) 学生ボランティアグループの活動支援
- ◆ UNWTO国際会議への参加
- ◆ UNWTO Academyとの同意書締結
- ◆ 関西観光本部との包括協定締結

●海外研究教育機関との連携拡充

- ◆ ブハラ国立大学との大学間交流協定締結
- ◆ ブハラ国立大学・和歌山大学観光学教育研究センターとの同意書締結
- ◆ ウズベキスタン学生交流訪問団派遣

●UNWTO. TedQual(観光学教育研究プログラム国際認証)認証取得協力

●学内FD(Faculty Development)・SD(Staff Development)活動支援

- ◆ 英語開講授業研修プログラム実施協力
- ◆ セミナー・ワークショップ開催
- ◆ 国際研修実施協力

●学内国際化支援

- ◆ 学内資料英語化の推進

1.4.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

●国際学会スポンサー参加

- ◆「APTA Annual Conference 2018」

●ニュースレター発行

- ◆「CTR Newsletter」(年2回発行)
- ◆「Wakayama University Tourism Update」(年2回、観光学部共同発行)

●外部機関との連携促進

- ◆UNWTO「Tourism for SDGs」参加
- ◆UNWTO「World Tourism Day」参加
- ◆UNWTO主催会議・地域大会への参加等
- ◆「UNWTO活用検討会」参加
- ◆UNWTO賛助会員ネットワーク間連携
- ◆UNWTO Academyとの共同プログラム開催
- ◆UNWTO. TedQualプログラム日本窓口としての活動開始
- ◆World Travel & Tourism Council (WTTC) プログラム実施協力
- ◆ウズベキスタン・日本人材開発センター (UJC) との連携
- ◆一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 (JSTA) 入会
- ◆宙ツーリズム推進協議会入会 (Tourism & Space, Mobility研究ユニット)

●学会・イベント参加(研究発表、招待講演、モデレーター、オブザーバー等)

●学会・イベント開催協力

- ◆京都大学宇宙総合学ユニット第12回宇宙ユニットシンポジウム
「人類は宇宙社会をつくれるか?—宇宙教育を通じた挑戦—」後援

●セミナー等の企画運営

- ◆観光教育研究セミナー:2回
- ◆CTR Seminar Series -Tourism & SDGs-:11回
- ◆公開セミナー、シンポジウム、ワークショップ、イベント:11回
- ◆学内セミナー、ワークショップ:7回

2 活動報告

2.1. 研究活動

2.1.1. 研究員別業績一覧

研究員ごとの研究出版業績(論文と著書に限る)は以下の通り。なお、現学内研究員の業績詳細は、本学ウェブサイト内、研究者総覧ページ(<http://wakarid.center.wakayama-u.ac.jp/>)参照。

Chakraborty, Abhik

(論文)

- Chakraborty, A. (2019). Does nature matter? Arguing for a biophysical turn in the ecotourism narrative. *Journal of Ecotourism*, Advance online publication. doi: 10.1080/14724049.2019.1584201 *Indexed in Scopus
- Chakraborty, A., & Takenaka, T. (2019). A Qualitative Exploratory Analysis of Ecological Integrity for Safeguarding World Natural Heritage Sites: Case Study of Shiretoko Peninsula, Japan. *Heritage*, 2(1), 898-919, doi: 10.3390/heritage2010060

Doering, Adam

(論文)

- Doering, A., & Evers, C. (accepted for publication). Maintaining masculinities in Japan's transnational surfscapes: Space, place and gender. *Journal of Sport and Social Issues*.
- Evers, C. & Doering, A. (Eds.) (accepted for publication). Lifestyle sports in East Asia [Special Issue]. *Journal of Sport and Social Issues*.
- 永井隼人, 牧野恵美, 柏木翔, ドーリングアダム, 八島雄士. (2019). 日本における「DMO」という用語の使用に関する研究—五大全国紙の分析から—. *日本国際観光学会論文集*, 26, 41-50.
- Doering, A., & Zhang, J. (2018). Critical Tourism Studies and The World: Sense, praxis, and the politics of creation. *Tourism Analysis*, 23(2), 227-237. doi: 10.3727/108354218X1521031350457 *Indexed in Scopus

(著書)

- Doering, A. (2018). From he'e nalu to Olympic sport: A century of surfing evolution (case study). In J. Higham, & T. Hinch, *Sport Tourism Development (3rd edition)*, (pp. 200-203). Bristol, UK: Channel View Publications.

秋山 演亮

(論文)

- 秋山演亮, 山口 耕司, 中村 良介. (2018). 超小型衛星によるリモートセンシング第4回超小型衛星網による地球観測. *日本リモートセンシング学会誌*, 37(5), 456-460. doi: 10.11440/rssj.37.456

足立 基浩

(論文)

- 足立基浩**. (2018). 商店街を科学的に分析する—その手法と商店街再生事例—. *中小商工業研究*, 第135号, 40-49.

(著書)

- 足立基浩**, 石原武政. (2019). 第5章 まちの資源を確認する. 石原武政・渡辺達朗編著, *小売業起点のまちづくり* (pp. 102-126). 東京: 碩学舎

伊藤 央二

(論文)

- Ito, E.**, & Walker, G. J. (2018). Relationships among self-construal, control, and positive affect in Japanese undergraduate students' leisure experience. *World Leisure Journal*, 60(1), 14-28. doi: 10.1080/16078055.2017.1278716 *Indexed in Scopus
- Ito, E.**, Walker, G. J., Mitas, O., & Liu, H. (2019). Cultural similarities and differences in the relationship between types of leisure activity and happiness in Canadian, Chinese, and Japanese university students. *World Leisure Journal*, 61(1), 30-42. doi: 10.1080/16078055.2018.1535449 *Indexed in Scopus
- Ito, E.**, Walker, G. J., & Mannell, B. (2018). Discrepancies between Japanese undergraduate students' ideal affect and actual affect in social contexts and life domains. *International Journal of the Sociology of Leisure*, 1 (3), 227-240. doi: 10.1007/s41978-018-0015-9
- 伊藤央二**, 山口志郎, 高松祥平. (2018). サイクルスポーツイベントの再参加意図と口コミにおける感情評価理論の援用. *生涯スポーツ学研究*, 15(2), 15-22.
- 長野慎一, **伊藤央二**. (2018). 熊野古道を歩くことがもたらす多局面にわたる感情経験について. *生涯スポーツ学研究*, 15(1), 11-23. doi: 10.14838/jjls.15.11
- Hinch, T., & **伊藤央二**. (2018). Research, lifelong sport, and travel: Sustainable sport tourism in the prefecture of Okinawa. *生涯スポーツ学研究*, 15(2), 1-13.
- Hinch, T., & **Ito, E.** (2018). Sustainable sport tourism in Japan. *Tourism Planning and Development*, 18(1), 96-101. doi: 10.1080/21568316.2017.1313773 *Indexed in Scopus
- Ito, E.**, & Hikoji, K. (2018). Constraints and constraint negotiation when participating in domestic and international masters games. *International Journal of Sport and Health Science*, 16, 120-127. doi: 10.5432/ijshs.201734
- Ito, E.**, Walker, G. J., & Kono, S. (2019). A comparison of immediate and retrospective affective reports in leisure contexts. *Journal Leisure Research*, 50(1), 48-55. doi: 10.1080/00222216.2018.1552486 *Indexed in Scopus
- 彦次佳, **伊藤央二**. (2018). 国外マスターズスポーツ大会参加者の阻害要因および阻害要因折衝: World Masters Games 2017 Auckland参加者の事例報告. *生涯スポーツ学研究*, 15(2), 49-55.

(著書)

- Ikeji, T., **Ito, E.**, Fairley, S., & Yamaguchi, S.. (2018). Japan. Hallmann, K. & Fairley, S. (Eds.) *Sports volunteers around the globe: Meaning and understanding of volunteering and its societal impact* (pp. 125-135). Switzerland: Springer.
- Ito, E.** (2018). *Meanings of leisure in Japan*. 京都: 晃洋書房
- Ito, E.** (2018). Culture, ideal affect, and sport tourist motivations (case study). Higham, J., & Hinch, T. (Eds), *Sport Tourism Development 3rd Edition* (pp.51-52). UK: Channel View Publications
- 伊藤央二.** (2018). 生涯スポーツの伝統と文化. 川西 正志, 野川 春夫編著, *生涯スポーツ実践論 (第4版)* (pp.5-8). 東京: 市村出版

大浦 由美

(著書)

- 神田孝治, **大浦由美**, 加藤久美 編. (2018). *大学的和歌山ガイド-こだわりの歩き方*. 京都: 昭和堂 13-20.

大橋 直義

(論文)

- 大橋直義.** (2019). 「絵本」とアクティヴ・ラーニング—小学校における伝統的言語文化教育との融合を目指して—. *和歌山大学教育学部紀要 教育科学*, 69, 182-176.
- 大橋直義.** (2019). 小学校国語における狂言「柿山伏」—異文化理解にむけて—. *和歌山大学教育学部紀要 人文科学*, 69, 62-57.
- 大橋直義.** (2018). 粉河寺御池坊蔵『粉河寺御池海岸院本尊縁起絵巻』翻刻と解題. *紀州経済史文化史研究所紀要*, 39, 61-96.

(著書)

- 延慶本注釈の会. (2019). *延慶本平家物語全注釈第六末(巻十二)*. 東京: 汲古書院
- 紀州経済史文化史研究所. (2019). *特別展図録 加太・友ヶ島の信仰と歴史—葛城修験二十八宿の世界—*. 和歌山: 和歌山大学地域活性化総合センター紀州経済史文化史研究所

尾久土 正己

(論文)

- 大井田かおり, 吉住千亜紀, 中辻晴香, **尾久土正己.** (2018). フロー理論に基づく外国語学習～360度ドーム映像を使った第二外国語学習. *教育メディア研究*, 25(1), 1-18.
- 吉住千亜紀, **尾久土正己**, 四方圭一郎, 榎村洋介. (2018). 飯田市美術博物館における実写ドーム映像利用の試み. *大学連携会議機関誌学輪* 5, 45-52.

小野 健吉

(論文)

- 小野健吉.** (2019). 日本における寺院庭園の歴史と庭園観光. *観光学*, 20, 13-25.
- 小野健吉.** (2019). 相楽園の活用と運営の展望. *観光学*, 20, 47-55.

海津 一郎

(論文)

- 海津一郎.(2019). 後醍醐天皇による「御手印縁起」の制作. *和歌山大学教育学部紀要 人文学*, 69, 1-6.
- 海津一郎.(2018). 紀伊半島が世界史を変える. *歴史評論*, 816, 92-93.

(著書)

- 海津一郎.(2018). *新 神風と悪党の世紀—神国日本誕生の舞台裏—*. 東京: 文学通信・日本史史料研究会ブックス
- 海津一郎, 稲生淳. (2018). *世界史とつながる日本史 紀伊半島からの視座*. 京都: ミネルヴァ書房

加藤 久美

(論文)

- Propano, R. N., & **Kato, K.** (2018). Spirituality and tourism in Japanese pilgrimage sites: exploring the intersection through the case of Kumano Kodo. *Fieldwork in Religion*, 13(1), 23-43. *Indexed in Scopus

岸上 光克

(論文)

- 八島雄士, **岸上光克**. (2018). 社会的企業における戦略マップの適用可能性-地域経営組織におけるアクションリサーチ-. *メルコ管理会計研究*, 10(II), 43-53.

(著書)

- 藤田武弘, 内藤重之, 細野賢治, **岸上光克**. (2018). *現代の食料・農業・農村を考える*. 京都: ミネルヴァ書房

佐野 楓

(論文)

- Nagai, H., Ritchie, B. W., **Sano, K.**, & Yoshino, T. (2019). International tourists' knowledge of natural hazards. *Annals of Tourism Research*, Advance online publication. doi: 10.1016/j.annals.2019.02.008 *Indexed in Scopus

(著書)

- 佐野楓**. (2018). 第3章 顧客満足と顧客ロイヤルティ戦略. 岡山武史編著, *リレーションシップ・マーケティング第2版-サービス・インタラクション-*(pp.35-43). 東京: 五絃舎

竹林 明

(著書)

- 上林憲雄, 奥林康司, 開本浩矢, 森田雅也, **竹林明**編著. (2018). *経験から学ぶ経営学入門 第2版* 東京: 有斐閣

辻 和良

(論文)

- 辻和良**, 植田淳子. (2018). 中山間地域における移住者の受け入れに対する農家意識-和歌山県紀美野町農家アンケート結果を中心に-. *農業市場研究*, 27(2), 16-22.

(著書)

- 宮井浩志, **辻和良**. (2018). 第10章 園芸を取り巻く環境変化と産地の課題. 藤田武弘, 内藤重之, 細野賢治, 岸上光克編著, *現代の食料・農業・農村を考える*. (pp. 136-152). 京都: ミネルヴァ書房
- 辻和良**. (2018). 有田ミカンの産地展開と今日. 神田孝治・大浦由美・加藤久美編, *大学的和歌山ガイドーこだわりの歩き方* (pp. 167-185). 京都: 昭和堂

出口 竜也

(論文)

- 出口竜也**. (2018). 中牧弘允ほか編著, *テキスト経営人類学*. (pp.109 -110). 大阪: 東方出版

富田 晃彦

(著書)

- Tomita, A.** (2018). The Assessment of "Fun and Play" Visiting Activity for Young Children. *Communicating Astronomy with the Public 2018* (p149). Fukuoka, Japan: International Astronomical Union CommissionC2.
- Shibata, S., Kouda, M., Watanabe, E., Ando, K., **Tomita, A.**, ...Uriu, K. (2018). The Star-Sommelier Has Opened a New Way for a Wider Astronomy Communication. *Communicating Astronomy with the Public 2018* (pp. 222-223). Fukuoka, Japan: International Astronomical Union CommissionC2.
- Tomita, A.** (2018). Tanabata Star Festival. In R. M. Ros, & J. A. Belmonte(Eds.), *NASE kaleidoscope of experiences in cultural astronomy: Archeoastronomy and Astronomy in the City* (pp. 189-191). Vienna, Austria: the Second Seminar on NASE Experiences in Cultural Astronomy.

永井 隼人

(論文)

- Tkaczynski, A., **Nagai, H.**, & Rundle-Thiele, S. (2018). Australian students' activity preferences, perceived physical risk and interest in vacationing in Japan. *Journal of Vacation Marketing*, 24(4), 355-370. doi: 10.1177/1356766717736348 *Indexed in Scopus
- Nagai, H.**, Doering, A., & Yashima, Y. (2018). The emergence of the DMO concept in Japan: Confusion, contestation and acceptance. *Journal of Destination Marketing & Management*, 9, 377-380. doi: 10.1016/j.jdmm.2018.02.001 *Indexed in Scopus

■**Nagai, H.**, Benckendorff, P., & Tkaczynski, A. (2018). Differentiating Asian working holiday makers from traditional backpackers on the basis of accommodation preferences. *Journal of Hospitality and Tourism Management*, 35, 66-74. doi: 10.1016/j.jhtm.2018.03.003 *Indexed in Scopus

■**永井隼人**, 牧野恵美, 柏木翔, ドーリングアダム, 八島雄士. (2019). 日本における「DMO」という用語の使用に関する研究—五大全国紙の分析から—. *日本国際観光学会論文集*, 26, 41-50.

中串 孝志

(論文)

■**中串孝志**. (2019). 2018年9月 東京電力福島第一・第二原子力発電所見学記. *観光学*, 20, 83-94.

(著書)

■**中串孝志**編. (2019). *観光からみた宇宙3.和歌山: 和歌山大学国際観光学研究センター*

東 悦子

(論文)

■**東悦子**, 江子薫, 森さえか, 孫昊, 児嶋恵伍, 胡戎, ..., 楊佳莉. (2019). 和歌山城におけるインバウンド対応について～日中学生によるフィールドワークを通して～. *観光学*, 20, 57-68.

(著書)

■**東悦子**. (2018). アメリカ村とカナダ移民. 神田孝治・大浦由美・加藤久美編, *大学的和歌山ガイド—こだわりの歩き方* (pp.125-140). 京都: 昭和堂

彦次 佳

(著書)

■**彦次佳**. (2018). 第11章 [4] マスターズスポーツ. 川西正志, 野川春夫編著, *生涯スポーツ実践論* (第4版) (pp.185-189). 東京: 市村出版

藤田武弘

(論文)

■**阪井加寿子**, 貫田理紗, **藤田武弘**. (2018). UIターン移住者の実態と農村移住支援についての考察. *農業市場研究*, 27(1), 30-37.

■**藤井至**, 稲葉修武, **藤田武弘**. (2018). 農業経営・交流の両面からみた農業体験農園の役割. *農業市場研究*, 27(1), 12-22.

■**藤田武弘**. (2018). 観光をめぐる新たな潮流と地域農業・食料市場. *農業市場研究*, 27(3), 3-12.

(著書)

■**藤田武弘**, 内藤重之, 細野賢治, 岸上光克編 (2018). *現代の食料・農業・農村を考える*. 東京: ミネルヴァ書房

■**藤田武弘**. (2018). 都市から農村への移住と中間支援組織, 南部・田辺地域の梅. 神田孝治・大浦由美・加藤久美編, *大学的和歌山ガイド—こだわりの歩き方* (pp. 69-81, 189-199). 京都: 昭和堂

八島 雄士

(論文)

- 八島雄士, 岸上光克. (2018). 社会的企業における戦略マップの適用可能性—地域経営組織におけるアクションリサーチ—. *メルコ管理会計研究*, 10(II), 43-54.
- 永井隼人, 牧野恵美, 柏木翔, ドーリング アダム, 八島雄士. (2019). 日本における「DMO」という用語の使用に関する分析—五大全国紙の分析から—. *日本国際観光学会論文集*, 26, 41-50.

山田 良治

(著書)

- 山田良治. (2018). *知識労働と余暇活動*. 東京: 日本経済評論社.

吉田 道代

(論文)

- 吉田道代, 堤純. (2019). アジア系中間層・富裕層とオーストラリアの都市—2000年以降のシドニー都心部の再開発、住宅価格の高騰をめぐる議論に焦点を当てて—. *オーストラリア研究*, 32, 90-97.

(著書)

- 吉田道代. (2018). コラム エスニック・アイデンティティとビジネス—バーミンガム市のブリティッシュ・バングラに焦点を当てて—. *経済地理学会編, キーワードで読む経済地理学* (pp. 558-567). 東京: 原書房

吉野 孝

(論文)

- 山本理絵, 吉野孝, 西端めぐみ, 中井國雄, 柳本将喜, 入江真行. (2018). コミュニケーション支援に特化した在宅医療連携のための患者情報共有システムの情報共有機能の評価—. *情報処理学会論文誌*, 59(5), 1351-1362.
- 福島拓, 吉野孝. (2019). 穴あき用例と単言語話者作成の正確な用例とを活用した多言語用例対訳作成手法—. *情報処理学会論文誌*, 60(1), 166-173.

吉村 旭輝

(論文)

- 吉村旭輝. (2019). 「道成寺物」の流行による道成寺と熊野参詣道の変容—『道成寺縁起』絵解き成立を視野に入れて—. *藝能史研究*, 224, 35-47.

(著書)

- 吉村旭輝. (2018). 奈良県教育委員会事務局文化財保存課編, *奈良県無形民俗文化財ガイドブック2018* (p55). 奈良: 奈良県教育委員会事務局文化財保存課
- 和歌山大学 地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所編. (2019). 加太・友ヶ島の信仰と歴史—葛城二十八宿の世界—. 和歌山: 和歌山大学 地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所

2.1.2. 登録研究プロジェクト一覧

2.1.2.1. 科学研究費助成事業採択研究課題

文部科学省及び日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業に採択され、CTR研究員が代表者として取り組む研究プロジェクトは以下の通り(掲載希望課題のみ)。

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
基盤研究 B	Brent W. Ritchie	Protecting international tourists from harm: Developing an effective tourist hazard information system	観光学
	加藤 久美	サステナブルツーリズムによるSDGsの推進:レジリエンスを基盤として	観光学
基盤研究 C	足立 基浩	観光エリアマネジメント活動が地方の市街地の経済活動に与える効果に関する研究	観光学
	大井 達雄	空間統計学による観光市場の地域特性の把握と地理情報の高度化に関する研究	観光学
	尾久土 正己	フレームレス超高解像度映像による東京オリンピックの博物館資料化	文化財科学・博物館学
	海津 一朗	中世の紀伊半島における歴史遺跡・名所の創作および保存・活用事業データベースの作成	観光学
	木川 剛志	「直接経験」に基づく都市形成モデルの研究:地方都市の立地適正化計画を事例として	都市計画・建築計画
	富田 晃彦	国際連携による幼児期の天文教育の研究	科学教育
	東 悦子	移民県和歌山における移民をめぐる記憶と遺物の保存と継承	地域研究
	藤田 武弘	新たな人口移動を契機とする農山村地域の経済及びコミュニティの変容に関する研究観光学	観光学
	山田 良治	知識労働の発展と観光行動の高度化との相互関係に関する日英比較研究	観光学
挑戦的萌芽研究	加藤 久美	ツーリズムによる希望の創出:クリティカル、サステナブルツーリズムの理論と実践	観光学
若手研究B	Abhik Chakraborty	人新世におけるアルパイン・ツーリズムの課題と可能性の分析	観光学
	伊藤 央二	国内外のマスターズスポーツ大会参加者のスポーツツーリスト行動に関する実証研究	スポーツ科学 観光学

研究種別	代表者	研究課題	研究分野
若手研究 B	佐野 楓	ツーリズム2.0時代のソーシャル・メディアマーケティング競争優位に関する研究	観光学
	永井 隼人	An exploratory study on minimizing travel-related risks among young Japanese travelling overseas	観光学
	山口 志郎	トレイルランニングにおけるリスクマネジメントと参加者のリスク認知に関する実証研究	スポーツ科学

2.1.2.2. CTR助成研究プロジェクト

<CTR研究支援プログラム>

CTRミッション「観光学研究の高度化を通じて健全で持続可能な社会の発展に寄与する」を踏まえ、下記の優先目標を考慮した研究プロジェクトを推進し、観光学研究の高度化・国際化を図ることを目的に、研究費助成を行う。CTR内部の競争的資金の位置づけで、CTRミッションと下記のキーワードいずれか及び、国連が掲げる「持続可能な開発目標 (SDGs)」達成に貢献する内容であることを求める。

■優先目標

- ①日本、アジア太平洋地域における観光学研究の牽引
- ②国内外の主要な観光学研究機関との連携強化

■研究推進にあたるキーワード

- ①Ethics and Responsibility
- ②Diversity and Equity
- ③Community and Environment

2018年度採択課題は以下の通り。いずれも助成期間は単年度。各課題の概要と活動報告は、CTRウェブサイトに掲載。

代表者	研究課題
Abhik Chakraborty	Ecotourism Model for Shiretoko Peninsula UNESCO World Heritage Site
Adam Doering	Living with Fukushima's "Contaminated" Sea: Life, Leisure and Tourism in the Wake of Disaster
Tom Hinch	Research, Lifelong Sport, and Travel : Exploring Pathways to Sustainability
Graham Miller	観光と持続可能な開発目標:観光企業のコミットメント～その動機と活動
Richard Sharpley	日本におけるダークツーリズムと困難な歴史一場所が持つ仲介的機能に焦点を当てて
永井 隼人	民泊に対する住民の態度に関する研究
永井 隼人	メガ・イベントが地方創生に与えるインパクトに関する研究— イベント開催都市以外の住民意識に着目して—
八島 雄士	観光目的地の競争優位性—DMOマネジャーの役割に着目して

<戦略的研究ユニット研究プロジェクト>

CTR研究ユニットのうち、該当分野の機能強化を図る目的で4ユニットに対し、2016年度から2018年度にかけ3年間の研究助成を実施。ユニットプロジェクトとして、組織的研究が行われ、今後も発展的継続が見込まれている。各課題の概要と活動報告は、CTRウェブサイトに掲載。

ユニット	研究課題
Tourism & Digital Media, Information	デジタル技術を使った観光地の臨場感可視化
Tourism & Space, Mobility	観光を含む広義の宇宙利用についての基礎的研究
Tourism & Food, Agriculture	インバウンドの求める日本の食と農に関する研究
Tourism & DMO	DMO形成による地域の価値創造基盤再構築

2.1.2.3. CTR客員研究員 研究プロジェクト

CTR客員研究員が取り組む研究のうち、公開希望の課題は以下の通り。各課題の概要は、CTRウェブサイトに掲載。

研究者	研究課題
Jonathan Gómez-Punzón	ディスティネーション成功のキーファクターとしての異文化間スキル:マドリッドの日本人観光客の事例から
黒田 有彩	宇宙観光とタレントの関わり合い
杉山 幹夫	LocalWikiを活用した住民による地域情報の発信 - 観光情報と防災情報の相互関係の発信に関する研究
蘇 哲仁	マーケティングツールとしての観光映像と国際観光映像祭のこれからのカタチ
吉田 潔	地球における着地型観光の推進方向に関する研究

2.1.3. 短期研究員招へい制度

短期研究員招へい制度は、本学研究者との共同論文執筆、共同研究、外部資金獲得などの可能性の高い研究者を最大2週間程度招へいし、CTRを拠点としたさまざまな研究交流を通じて観光学研究的活性化、高度化を図ることを目的としている。2018年度は2名の受け入れを行い、それぞれ公開セミナーや研究会等を開催し、CTR研究員や学生との交流をもち、共同研究への展開も進んでいる。

◆ Dr. Catheryn Khoo-Lattimore (Griffith University, Australia)

4月2日(火)～13日(金)に渡って来学し、自身の研究分野をテーマとしたセミナー「Women and Travel: Past and Present」の他、研究会「Constraints and opportunities: A dialogue on publishing in international research」や「The madness of publications: Can we ever do it right?」を開催した。世界の研究トレンドや挑戦的な試みが紹介され、イベント終了後までディスカッションが続くなど、研究員や学生と活発な意見交換が行われた。また、個別の研究相談会等も通じて交流を深め、自身が編集主幹を務める学術誌や書籍への論文投稿の共同企画も展開している。



◆ Prof. Cathy Hsu (Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong)

11月26日(月)～30日(金)にかけて来学し、短期間にイベントや個別面談等で多くの研究員や学生と交流をもった。公開セミナー「Resident Sentiment of Tourism: Construct and Model Development」や院生・若手研究者対象キャリア開発ワークショップ「What's Ahead and How Do We Get There?」といった観光学分野の内容にとどまらず、本学教育コンテンツ部会共催による全学FD研修会とした「オンライン学習プログラム勉強会」では、同学で導入しているMOOCsプログラムの先進事例について情報提供があり、学内のさまざまな部局から参加を得た。共同研究の計画も立ち上がり、さらなる協力関係の発展が期待される。



2.1.4. 「CTR研究集会」開催

11月9日(金)、「2018年度CTR研究集会」を開催し、CTR研究員が取り組んでいる上記CTR研究支援プログラムの中間報告を行った。全8プロジェクトの発表の中では、客員研究員による発表も行われた。機能強化プロジェクトに指定されている4つの研究ユニット(Food & Agriculture / Space & Mobility / Digital Media & Information / DMO)もこれまでの活動を報告するポスターを展示した他、CTR専任研究員3名によるパネルディスカッションでは、CTR年間テーマである「Tourism and SDGs」(26ページ参照)について議論が交わされた。本学特別主幹教授のRichard Sharpley CTR副センター長(University of Central Lancashire教授)が総括を務め、今後もこういった取り組みを通じて、研究土壌を育み成果を推進していくことへ激励があった。本集会は学生を含む一般にも公開し、主に英語で実施したが、多部局からの参加もあり、プログラム時間内に開催された交流会でも意見交換が行われ、CTRを軸に研究文化が広がっている。



2.1.5. 持続可能な開発目標(SDGs)推進

国際連合の掲げるSDGs (Sustainable Development Goals) の趣旨に賛同し、各種活動や研究、イベントを通じたSDGsの推進に努めている。例年開催している研究セミナーの年間テーマを「Tourism and SDGs」とし、CTR研究員だけでなく、国内外の研究者を招へいし、さまざまな観点からSDGsのコンセプトを基に講演を行った(39～45ページ参照)。また、CTR内部の競争的資金の位置づけである「研究支援プロジェクト」でもSDGs達成に貢献する取り組みであることを選考基準の一部とし、8件のプロジェクトを採択した。(23ページ参照)。さらに、有志学生とともに国連世界観光機関(UNWTO)が発行したリーフレット「観光と持続可能な開発目標」日本語版の作成に協力した他(28ページ参照)、内閣府国際青年育成交流事業の一環として、「SDGs through Tourism」をテーマとしたディスカッションプログラムを共催する(34ページ参照)等、外部機関とも連携しながら、普及促進の活動を展開している。これらの取り組みを紹介するウェブページ(<http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/tourismandsdgs.html>)も開設した。



2.1.6. 研究叢書刊行

2019年3月、CTR特別主幹研究員の大橋昭一和歌山大学名誉教授による研究叢書を刊行した。上述のSDGsの形成経緯と趣旨を起点に、サステナブル・ディベロップメントとツーリズムに関する議論の過程を論究し、サステナブル・ツーリズムに対する世界的議論の総括を試みている。英語圏での議論が中心となりがちなサステナブル・ツーリズム研究にアジアの視点から見解を提示している。



2.2. 研究・教育サポート

2.2.1. 研究相談会開催

観光学研究科(博士前・後期課程)の学生向けに、本学特別主幹教授による国際的視野に立った観光学研究指導の研究相談会(リサーチコンサルテーション)を開催した。世界の観光研究の最先端で活躍する教授陣から、各自の研究にアドバイスを獲得する機会とした。また、CTR研究員も特別主幹教授による研究会の場や、個別面談で議論を交えながら研究への助言を得た。

2.2.2. イベント開催支援

●「日本国際観光映像祭」開催

CTR研究員、木川剛志観光学部准教授が中心となり、CTRと摂南大学が実行委員会を組織し、映像による観光プロモーションの最新事例を学ぶことを目的に日本で初めてとなる「国際観光映像祭」を2019年3月13日(水)と14日(木)の2日間、大阪市内で開催した。世界各国からエントリーされた約150作品、国内約100作品の中から審査された45作品をノミネート作品として上映した他、映像を使った観光プロモーションのあり方・未来像を議論するパネルディスカッションも5テーマに分けて実施した。クリエイターだけでなく、学術研究者、観光産業従事者らが意見を交える映像祭は世界でも珍しく、今後も同様の取り組みを続けながら、持続可能な観光発展のための観光映像を研究していく。

2.2.3. 観光学部授業科目の開講支援

●特別主幹教授及びCTR専任研究員による授業科目開講支援

本学特別主幹教授6名が、観光学部及び観光学研究科の一部科目(観光学部科目に関してはグローバル・プログラム(GP)対象科目)の開講を支援した。主に、CTR専任研究員との共同担当として集中講義の形式をとった。2018年度開講科目は下記の通りで、2019年度に向けても引き続き調整を行っている。さらに、CTR専任研究員3名も観光学研究科の科目及びGP対象科目それぞれ年間2～3科目を担当し、観光学部にて実施しているGP受講学生の個人面談にも協力した。

●担当科目一覧

観光学部

科目名	担当者
Activity for Project	Amnaj Khaokhrueamuang
Community Based Tourism	Amnaj Khaokhrueamuan
Critical Issues in Tourism A	Thomas Hinch, Gordon J. Walker
Critical Issues in Tourism B	Brent W. Ritchie
International Organizations in Tourism	Abhik Chakraborty
Sustainability and Management	Graham Miller
Tourism and Environment B	Adam Doering
Tourism Policy and Law A	Anna Leask
Tourism Policy and Law B	Amnaj Khaokhrueamuan
Global Learning Advanced (Community Based Tourism in Thailand)	Amnaj Khaokhrueamuan
Global Learning Advanced (Dark Tourism Development in Japan- Theories & Practices)	Richard Sharpley

観光学研究科

科目名	担当者
Leisure and Sport Tourism	Thomas Hinch, Gordon J. Walker
Sustainability and Management	Graham Miller
The Ethics of Tourism and Travel	Adam Doering
Critical Tourism Studies	Adam Doering
Tourism and Heritage Management	Abhik Chakraborty, Anna Leask
Tourism Development and Community	Amnaj Khaokhrueamuan, Richard Sharpley
Tourism Risk Management	Brent W. Ritchie

2.2.4. 外部機関連携活動の支援・促進

2.2.4.1. 国際機関との連携

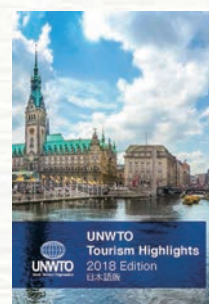
●UNWTO 学生ボランティアグループの活動支援

UNWTOの活動を普及する取り組みを、ボランティアとして観光学部や経済学部の学生ら約30名が主体的に進めており、CTRがその活動を支援している。主な取り組みは、UNWTO発行資料の翻訳協力と、同機関が提唱する世界観光倫理憲章(Global Code of Ethics for Tourism / GCET) を次世代に伝えるためのコンテンツ開発である。

●翻訳協力

「UNWTO Tourism Highlights 2018」

過去1年間の世界観光統計のダイジェストである「UNWTO Tourism Highlights」の日本語版の制作に協力した。UNWTOが作成した英語オリジナル版の翻訳やデータの校正などを行い、完成した冊子は11月に奈良県所在UNWTO駐日事務所から刊行され、和歌山大学内を始め、国内の各種イベント等で配布され、授業や調査等にも利用されている。



「観光と持続可能な開発目標」

UNWTOでは、持続可能な開発目標(SDGs)を観光の力で達成すべく普及と促進を進めている。観光には、17すべての目標に貢献する潜在力があるとされ、それぞれ具体的なアプローチを示したリーフレットを発行した。この日本語版「観光と持続可能な開発目標」の制作に学生ボランティアグループが協力した。

各出版物はUNWTO駐日事務所のウェブサイトからPDF版のダウンロードが可能。



●観光教育コンテンツ開発

GCETを観光教育のツールとして活用可能とし、普及促進に貢献するためウェブコンテンツの制作を進めている。全10条からなる条文を理解しやすい平易な英語で説明する動画をインターネット上で公開することを予定している。

●成果発表

「Tourism and SDGs Session at Wakayama University」

9月29日(土)、内閣府平成30年度国際青年育成交流事業「Discussion Program」の一環として本学にて開催された「Tourism and SDGs Session at Wakayama University(34ページ参照)で、ボランティアグループのメンバー4名がプレゼンテーションを行った。UNWTOの取り組みを普及する各種活動の紹介に加え、観光分野を専門としない他の参加者に向けて、観光の観点からのSDGs達成についての事例紹介を英語で発表した。

「持続可能な観光」国際シンポジウム2019

2月4日(月)から5日(火)にかけて奈良市内で開催された観光庁・奈良県共催、UNWTO後援の「持続可能な観光」国際シンポジウム2019の「持続可能な観光の実現に向けた取組～海外、若者から～」と題された特別セッションで、学生ボランティアグループの代表2名が上記の翻訳やコンテンツ開発についての活動紹介を英語で行った。また、同セッションのモデレーター及び、クロージングでの全体まとめをCTRセンター長加藤久美教授が担当した。



●UNWTO国際会議への参加

9月17日(月)～19日(水)にかけて、韓国ソウルで開催された「7th UNWTO Global Summit on Urban Tourism」に、全学公募により選考された学部生2名を派遣した。会議初日は各国観光担当大臣級によるパネルディスカッションや、イノベーションをテーマにしたセッション等が行われ、引率したCTRコーディネーターと学生も参加した。2日目にプログラムされた「UNWTO Global Youth Summit on Urban Tourism」にて、韓国8大学及び本学の学生が、都市観光活性化に関するアイデア発表及びディスカッションを行った。本学の学生2名は、韓国語での進行の中、英語通訳を介してディスカッションに参加し、特別賞を受賞した。



●UNWTO Academyとの同意書締結

和歌山大学が2017年に日本で初めて取得した観光教育、研究、訓練プログラムの質の向上を目的とした国際認証であるUNWTO. TedQual(31ページ参照)を管轄するUNWTO Academy との同意書を2018年11月28日(水)に締結した。同機関は、UNWTOの加盟国に向けた



観光に関する教育・訓練プログラムの履行を担う独立組織で、UNWTOの掲げる観光分野の健全な発展の実現に貢献する人材育成を支援している。この締結によって、本学が日本での窓口機関として国内での当認証制度の認知度を高めるとともに、普及・促進に貢献することを目指す。提携最初の取り組みとして12月3日(月)には、「2018 TedQual・観光学教育フォーラム in 東京」を同機関との共催で開催した(35ページ参照)

2.2.4.2. 国内機関との連携

●関西観光本部との包括協定締結

一般財団法人関西観光本部と当センター間で健全で持続可能な観光地域づくりに取り組むことを目的に、3月1日(金)、「一般財団法人関西観光本部と和歌山大学国際観光学研究センターとの連携に関する協定書」を締結した。この協定をもとに、両機関の連携・協力を更に推進し、CTRにおける観光学研究の高度化と健全な社会の発展への貢献を強化していく。

2.2.4.3. 海外研究教育機関との提携

●ブハラ国立大学との大学間交流協定締結

CTRが調整を進め、ウズベキスタン共和国、ブハラ州のブハラ国立大学 (Bukhara State University / BSU)と本学との大学間交流協定 (MOU) が締結された。4月16日(月)にBSUにて調印式が執り行われ、本学から瀧学長が出席した。現在、ウズベキスタンでは観光開発への関心が非常に高まっており、BSUでも観光学部が設置されている。BSUの観光学部と本学観光学部は、設立年数や学生数、教員数の規模だけでなく、英語による授業が提供されている等の類似点が多い。また、本交流協定を受け11月21日(水)にBSU内に開設された研究センター、ブハラ国立大学・和歌山大学観光教育研究センター (BSU-Wakayama Center of Tourism Education and Research) 開所式にCTRコーディネーターが参加した。今後、学生交流を始め、教育・研究の両面での連携を進めていく。



●ブハラ国立大学・和歌山大学観光教育研究センターとの同意書締結

上述BSU-Wakayama Center of Tourism Education and Researchの開設を受け、同センターの運営方針等の取決めに係る同意書を2019年3月に締結した。本同意書は、本学とBSUの他に、運営支援を実施しているウズベキスタン内閣府所管の基金、El-yurt umidi foundationと、ウズベキスタン貿易省及び独立行政法人国際協力機構(JICA)の共同プロジェクトであるウズベキスタン・日本人材開発センター(Uzbekistan-Japan Center / UJC)も当事者として加わっている。今後、同センターを両大学間の観光分野における教育及び研究等の交流拠点として、さまざまな取り組みを進めていく。

●ウズベキスタン学生交流訪問団派遣

上記、BSUとのMOU締結後、最初の交流事業として、和歌山大学ウズベキスタン学生交流訪問団を派遣した。CTRコーディネーターの引率の下、全学公募から選ばれた学部生4名が参加し、2019年3月1日(金)から9日間に渡り、ウズベキスタン・タシケント及びブハラを訪問した。訪ウ中に開催された第27回ウズベキスタン日本語弁論大会を見学した後、BSUの学生に本学と和歌山県の紹介を行い、さらに文化交流やスポーツ交流も実施した。現地でのコーディネート等で協力を得た上述ウズベキスタン・日本人材開発センターのビジネスセミナー参加者にもプレゼンテーションを行い、現地の観光関連産業従事者らとウズベキスタンの観光関連諸課題について意見交換を行った。また、受け入れに協力を得た在ウズベキスタン日本大使館、JICAウズベキスタン事務所、名古屋大学ウズベキスタン事務所を訪問し、本交流プログラムの活動報告を行った。学生は帰国後にも学内にて参加報告の発表を実施した。



2.2.5. UNWTO. TedQual認証取得支援

CTRの支援の下、2017年3月、本学観光学部がUNWTOの関連組織であるUNWTO Academy(当時UNWTO Themis Foundation)が実施する認証制度「UNWTO. TedQual(Tourism Education Quality)(以下TedQual)」の認証を取得した。100項目以上の詳細にわたる基準による審査を受け、国内では初めての取得となった。

UNWTO Academyは、UNWTOの加盟国に向け、その理念である観光分野の健全な発展の実現に貢献する人材育成を支援する独立組織として、観光学教育、研究、訓練プログラムの質の向上を目的とするTedQual認証制度を設けている。認証取得の価値は、世界水準の機関としての評価を受けるだけでなく、観光教育、研究のグローバルネットワーク(交換プログラム、共同研究、国際学会等)への参加やUNWTO Academyとの共同プログラムの実現が可能となることにある。2018年11月には、同機関と本学の間で同意書を締結し、12月に「2018 TedQual・観光学教育フォーラム in 東京」を共同で開催した(35ページ参照)。

今後さらに国内外でのネットワークを拡充し交流を図ることで、本学のプログラムの質向上を進めるために、2019年度に予定されている観光学部の認証期間更新の再審査に加え、観光学研究科博士前期課程のプログラムでも認証を得るべく、引き続きCTRによる支援を行っている。当センター自体は認証の対象とはならないが、両プログラムの認証取得過程も含めた一連の活動を通じて、国際舞台での本学のプレゼンスを高め、日本そしてアジア太平洋地域における観光学研究の牽引機関として発展していくことが期待される。

2.2.6. 学内FD・SD活動支援

●英語開講授業研修プログラム開催

非英語母語話者による英語開講授業のトレーニングプログラムをもつカナダのUniversity of Alberta, Faculty of Extensionと共同で、本学向けの研修プログラムを開発し、同機関のPamela Young氏が2月5日(火)から8日(金)にかけて4日間のワークショップ「Active Learning in the English-medium Instruction Classroom」を本学にて行った。座学だけでなくグループワークやプレゼンテーション等が含まれた体感型のアクティブ・ラーニング研修で、観光学部とCTR、システム工学部の教員が参加し、参加者間の情報交換を通じ多様な観点から学びを深めた。



●国際研修

国際水準の管理運営業務研修のため、総務課人事系の事務職員1名を世界的に評価の高い観光学教育機関であるThe Hong Kong Polytechnic Universityに派遣する協力をした。同学の教職員に聞き取り調査及び意見交換を行った他、同時に同大学で開催された「World Summit for Deans of Independent School of Hospitality and Tourism」の視察も行った。

●学内国際化支援

TedQual認証の継続的取得等を通じて、言い換えれば世界水準の教育研究プログラム及び大学組織の維持・向上を主導する役割を担うCTRでは、学内国際化支援のための取り組みを進めている。昨年度に引き続き、外国人研究員の就労環境整備の一環として、学内資料の英語化や手引き書の整備を主体的に進めた他、大学PRに不可欠なリーフレットの英語版も作成した。

2.3. 広報、アウトリーチ、アドボカシー

2.3.1. 学会スポンサー参加

●「APTA Annual Conference 2018」

7月3日(火)から6日(金)にわたってフィリピン共和国セブにて、Asia Pacific Tourism Association (APTA) の第24回大会が開催された。APTAは1995年に創設の国際学会で、有力学術雑誌Asia Pacific Journal of Tourism Researchを発行するなど、アジア太平洋地域で最も活発な観光研究の国際学会の一つと言える。今大会にはアジアを中心に世界各国から約170名が参加し、日本からは40名の参加があった。また、本学では3年続けてスポンサーとしてAPTAの年次大会に協賛しており、大会期間中はスポンサー紹介パネルが会場に設置された他、学会プログラムに広告が掲載された。



2.3.2. ニュースレター発行

●CTR Newsletter

2018年度より年2回発行のニュースレターとして、「CTR Newsletter」が9月、3月に発行された。CTRが取り組む研究や教育支援活動、国内外の観光関連研究情報を紹介している。CTRウェブサイト(<http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/resource/newsletter.html>)からPDFファイルのダウンロードも可能。

●WTU(Wakayama University Tourism Update)

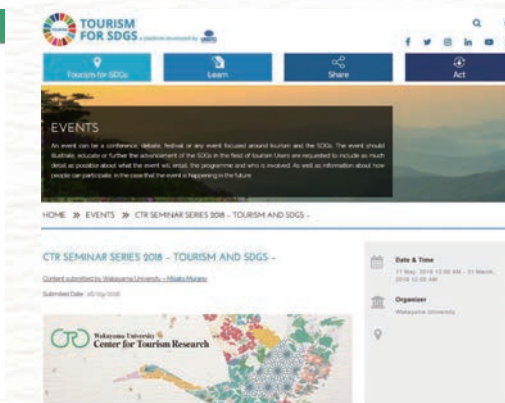
CTRと観光学部の観光教育サポートオフィスとの共同編集・発行による年2回発行のニュースレター「WTU(Wakayama University Tourism Update)」が4月、11月に発行された。CTR・観光学部それぞれの国内外の観光研究情報の発信及び国内外問わず活動している学生の取り組みについて紹介している。観光学部ウェブサイト(<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/fuzoku/tourism-education-research/wtu.html>)からPDFファイルのダウンロードも可能。

2.3.3. 外部機関との連携促進

●「持続可能な開発目標(SDGs)」推進協力

●UNWTO「Tourism for SDGs」登録

国連の掲げるSDGsの趣旨に賛同し、各種活動や研究、イベントを通じたSDGsの推進に努めている(26ページ参照)。「CTR Seminar Series 2018 - Tourism and SDGs -」を筆頭に、「CTR研究支援プログラムや関連リーフレットの翻訳協力等の取り組みを紹介するウェブページ(<http://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/research/tourismandsdgs.html>)」を開設した。



さらに、観光を通じたSDGs達成への取組みを世界に発信するためにUNWTOが開設したポータルサイト「Tourism for SDGs」(<http://tourism4sdgs.org>)に、賛助会員として本学もCTRの活動を紹介し、参画している。

●「Tourism and SDGs Session at Wakayama University」共催

2018年9月29日(土)、本学にて「Tourism and SDGs Session at Wakayama University」が開催された。内閣府 平成30年度国際青年育成交流事業「Discussion Program」の一環として、ラオス人民共和国とドミニカ共和国から招へいた外国青年と国際的な問題に関心の深い日本青年が参加し、視察やディスカッションを通じてさまざまな知識と異文化への理解を深め、国際的な対応力を身につけることを目的とした。特に、総合テーマとしてSDGsへの取組みが推奨されていたため、SDGs推進の活動を進めるCTRによる共催が実現した。

冒頭には、本学学生ボランティアグループのメンバー4名によるプレゼンテーションも行われ、UNWTOの取組みを普及するボランティア活動の紹介及び、観光の観点からのSDGs達成についての事例紹介を英語で発表した。学生らは、交流事業の参加者10名とともに「SDGs through Tourism」をテーマにディスカッションを行った。

また、本セッションはUNWTOが提唱している世界観光の日(World Tourism Day)に賛同するイベントとしても位置付けられ、観光に限らないさまざまな専門分野からの参加者たちともそのコンセプトが共有された。



●UNWTO各会議・地域大会参加等

●「メガイベントを通じた観光振興・地域活性化」出席

9月25日(火)に大阪で開催された、UNWTO駐日事務所及びアジア太平洋観光交流センターによる共催シンポジウム「メガイベントを通じた観光振興・地域活性化」の運営を本学学生ボランティア5名が支援した。また、訪日中であったUNWTOのZurab Pololikashvili事務局長らと本学瀧学長の面会が実現した。本学は、2015年よりUNWTO賛助会員に加盟しており、2018年1月に就任した同事務局と初めての面会となった。



●UNWTO Academyとの共同プログラム

●「2018 TedQual・観光教育学フォーラム」

TedQualの認証元であるUNWTO Academyとの同意書締結を受けて(30ページ参照)、日本で初めてとなるTedQual普及に関するフォーラムを、同機関との共催で、12月3日(月)に東京で開催した。TedQual認証の監査員や認証取得大学の代表者によって、制度の概要や事例紹介の他、日本における観光学教育の課題や在り方、質保証についてのパネルディスカッションが行われ、全国から集まった教育機関担当者らが耳を傾けた。今後もこのようなセミナーやイベントを通じ、アジア太平洋地域でのさらなるTedQualの認知向上と認証取得の後押しを目指す。



●UNWTO賛助会員ネットワーク間連携

1月12日(土)～13日(日)に別府市内で開催されたUNWTO駐日事務所・国際協力機構(JICA)・立命館アジア太平洋大学共催による「観光を通じた地域振興ワークショップ・シンポジウム」の運営補助を行った他、本学からの参加学生のサポートを行った。次世代を担う観光人材の育成を目的とした本シンポジウムでは、主催者や地元観光関連事業者等から地域活性やSDGsに関連した講演が行われた。その後、「Future Tourism Leaders Workshop」では、本学からの3名を含む全国から集まった多様な国籍の学生らが、グループに分かれてSDGsや観光倫理憲章を踏まえて観光目的地の分析を行い、ディスカッションやプレゼンテーションを実施した。

●WTTC Tourism for Tomorrow Awards協力

世界旅行ツーリズム協会(World Travel & Tourism Council / WTTC)が毎年行っている Tourism for Tomorrow Awards では、本学特別主幹教授Graham Miller CTR副センター長(University of Surrey教授)が審査長を務めている他、加藤CTRセンター長もその審査員として、4月18日(水)～19日(木)にアルゼンチンで開催されたWTTC Global Summit 2018の審査員会議及び授賞式に出席した。加藤センター長は引き続き、2019年2月にも、2019年のWTTC Tourism for Tomorrow - Changemakers Award のインドネシアにおける実地審査にも協力した。

●ウズベキスタン・日本人材開発センター (UJC) との連携

ブハラ国立大学(BSU)とのMOU締結やウズベキスタンにおける教育・研究プログラム開発にあたり、2017年からUJCの協力を得ている。3月に和歌山大学ウズベキスタン訪問団を派遣(31ページ参照)した際にも、現地のコーディネーター等に協力を得た。一方で、4月17日(火)には、ウズベキスタン日本人材開発センター11周年記念行事に出席し、11月10日(日)には、UJC主催の「オープンビジネスフォーラム:日本とウズベキスタンのビジネス交流」に出席した他、UJC主催のビジネスセミナーに藤井CTRコーディネーターが登壇し、観光統計、観光倫理及び観光デジタルトランスフォーメーションをテーマに複数回講演し、プログラム実施に協力した。今後もUJCを拠点に、BSUを始めとした関連諸機関との連携を推進していく。

●「ツーリズムEXPOジャパン」登壇協力

9月20日(木)から23日(日)にかけて開催された世界最大級の旅行イベント「ツーリズムEXPOジャパン」の業界向けイベントである「アジア・ツーリズム・リーダーズ・フォーラム」に、本学特別主幹教授Graham Miller CTR副センター長(University of Surrey)が昨年度に続き登壇した。持続可能な観光ビジネスと地域社会をテーマに、基調講演の他、パネルセッションでのモデレーター及びパネリストとして国内外のプレゼンターとともに事例共有を通じ、アジアの観光における課題解決について議論を交わした。



2.3.4. 学会、イベント参加等

CTRスタッフが出席したイベントは以下の通り。

日 程	イベント名	主 催
4/18~19	WTTC Global Summit 2018 (Buenos Aires, Argentina)	WTTC (World Travel & Tourism Council)
5/30~31	4th UNWTO World Forum on Gastronomy Tourism (Bangkok, Thailand)	UNWTO; Government of Thailand
6/18~20	UNWTO Regional Seminar on Climate Change, Biodiversity & Sustainable Tourism Development 及び 30th Joint Meeting of the UNWTO Commission for East Asia and the Pacific and the UNWTO Commission for South Asia (Nadi, Fiji)	UNWTO; Republic of Fiji
6/29	平成30年度 定時社員総会 及び 2018年度 第2回JSTAセミナー(東京)	JSTA (一般社団法人日本スポーツ ツーリズム推進機構)
7/3~7/5	24th APTA Annual Conference 2018 (Cebu, Philippines)	APTA (Asia Pacific Tourism Association)
7/20	第9回 UNWTO活用検討会(東京)	観光庁
8/23~8/26	6th International Buddhist Conclave (Delhi, India)	Ministry of Tourism of India
8/28	ウズベキスタン共和国大使館「独立記 念ラウンドテーブル」(東京)	駐日ウズベキスタン大使館
9/16~9/19	7th UNWTO Global Summit on Urban Tourism 及び UNWTO Youth Summit on Urban Tourism (Seoul, Republic of Korea)	UNWTO; Seoul Metropolitan Government
9/19	Musashino University Creating Happiness Incubation 3rd International Symposium 「Sustainable tourism generating happiness: SDG perspectives」(東京)	武蔵野大学しあわせ研究所
9/20~9/23	ツーリズムEXPOジャパン2018(東京)	公益社団法人日本観光振興協会; 一般社団法人日本旅行業協会; 独立行政法人国際観光振興機構 (日本政府観光局)

日程	イベント名	主催
9/25	UNWTO駐日事務所 / 一般財団法人 アジア太平洋観光交流センター共催 シンポジウム「メガイベントを通じた 観光振興・地域活性化」(大阪)	UNWTO駐日事務所; 一般財 団法人アジア太平洋観光交 流センター
9/27~9/28	UN World Tourism Day 2018 & Meeting with UNWTO Innovation and Digital transformation (Budapest, Hungary)	UNWTO; Hungarian Tourism Agency and Ministry of Foreign Affairs and Trade
10/24~10/26	International Tourism Film Festival 2018 (Leiria, Portugal)	ART&TUR
11/5~11/6	日本留学フェア2018 in Tashkent (Tashkent, Uzbekistan)	名古屋大学、ウズベキスタン 日本人材開発センター (UJC)
11/10	オープンビジネスフォーラム: 日本とウズベキスタンのビジネス交流 (Tashkent, Uzbekistan)	UJC
11/19	第10回 UNWTO活用検討会(東京)	観光庁
12/3~12/5	3rd UNWTO/UNESCO World Conference on Tourism and Culture (Istanbul, Turkey)	UNWTO; UNESCO; Minstry of Culture and Tourism, Republic of Turkey
1/12~1/13	UNWTO APU JICA Future Tourism Leaders Workshop (別府)	UNWTO駐日事務所、APU (立命館アジア太平洋大学)、 JICA (国際協力機構)
2/4~5	「持続可能な観光」 国際シンポジウム(奈良)	観光庁; 奈良県
3/2	第27回 ウズベキスタン日本語弁論大会 (Tashkent, Uzbekistan)	在ウズベキスタン日本国大使 館、ウズベキスタン日本セン ター、ウズベキスタン日本語教 師会、世界経済外交大学
3/18	第11回 UNWTO活用検討会(東京)	観光庁

2.3.5. セミナー等の企画・運営

- 観光教育研究セミナー(全2回)
- CTR Seminar Series -Tourism & SDGs-(全11回)
- 公開セミナー、ワークショップ、イベント(全11回)
- 学内セミナー、ワークショップ(全7回)

開催日	イベント名/講師等/ポスター	
4/4(水)	Research Dialogue Volume 1 「Constraints and opportunities: A dialogue on publishing in international research」	
	Catheryn Khoo-Latimore (Senior Lecturer, Griffith University, Australia)	
4/10(火)	Research Dialogue Volume2 「The madness of publications: Can we ever do it right?」	
	Catheryn Khoo-Latimore (Senior Lecturer, Griffith University, Australia)	
4/11(水)	セミナー 「Women and Travel: Past and Present」	 <p>Seminar Women and Travel: Past and Present</p> <p>The future and present travel market has witnessed a rising trend of females in its traveler demographics. Research shows emerging female travelers such as solo female travel and global citizens. While the sector of male to female travelers has been a rising commodity of women, tourism agencies remain gendered. In this seminar, attendees will be taken on a journey on how travel for women has evolved and otherwise, over the decades, and how men as tourism scholars and future tourism practitioners can impact positive changes for a less gendered tourism space.</p> <p>Speaker : Dr. Catheryn Khoo-Lattimore <small>from Griffith University, Australia</small></p> <p>Date : Wednesday, April 11, 2018 Time : 13:10 ~ 14:40 Venue : CTR Conference room <small>(107room, BLDG. West 1, Wakayama University)</small></p>
	Catheryn Khoo-Latimore (Senior Lecturer, Griffith University, Australia)	
5/11(金)	CTR Seminar Series 2018 - Tourism and SDGs - Vol.1 「Sport Tourism Development: Considering Sustainability	 <p>CTR Seminar Series 2018 - Tourism and SDGs - Vol.1</p> <p>Sport Tourism Development: Considering Sustainability</p> <p>2018年 5月11日(金) 13:10~14:40 会場 和歌山大学 国際観光学術センター会議室 (西1号館 4階会議室) 107会議室 (和歌山県和歌山市)</p> <p>講師 Prof. Tom Hinch <small>和歌山大学 国際観光学術センター 国際観光学術センター 国際観光学術センター</small></p>
	Tom Hinch (和歌山大学 特別主幹教授、 Professor, Faculty of Kinesiology, Sports and Recreation, University of Alberta)	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
5/18(金)	FDセミナー 「Supervising International Graduate Students: A Canadian Perspective」	
	Gordon J. Walker (和歌山大学 特別主幹教授 / Professor, Faculty of Kinesiology, Sport, and Recreation, University of Alberta)	
5/23(水)	CTR Seminar Series 2018 - Tourism and SDGs - Vol.2 「Sustainable Development Goals - Academic collaboration with the tourism industry and local communities」	
	Anna Leask (和歌山大学 特別主幹教授、Professor, Edinburgh Napier University)	
6/8(金)	CTR Seminar Series 2018 - Tourism and SDGs - Vol.3 「Reducing Vulnerability for International Tourists and the Japanese Tourism Industry: Towards a Tourist Hazard Information System」	
	Brent Ritchie (和歌山大学 特別主幹教授、Professor, School of Business, Faculty of Business, Economics and Law, the University of Queensland)	
6/20(水)	CTR Sustainability Unit Seminar 「Surf, sea and sustainability: A public seminar on the science and culture of riding waves」	
	武知 実波 (JPSA公認プロサーファー / パタゴニア・サーフィン・アンバサダー / 初代阿南ふるさと大使) 楠部 真崇 (和歌山工業高等専門学校 准教授)	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
6/22(金)	CTR Skype Seminar 「持続可能な開発目標に貢献する観光」	
	Jonatan Gomez-Punzon (Universidad Rey Juan Carlos)	
7/23(月)	CTR Tourism & Culture, Heritage Unit Seminar 「Elephant and Tourism Development in Chiang Mai, Thailand」	
	Ploysri Porananond (Associate Professor, Chiang Mai University)	
7/25(水)	CTR 3rd Sustainable Agritourism Workshop 「Tea Industry and Tourism」	
	Piyaporn Chueamchaitrakun (メーファールアン大学茶業研究所所長) 中小路 和義 (有限会社エバーグリーン 社長/公益社団法人静岡県茶業会議所 月刊「茶」編集長) 須賀 努 (公益社団法人静岡県茶業会議所 月刊「茶」コラムニスト)	
8/10(金)	観光教育研究セミナー2018 Vol.1 in 東京/ CTR Seminar Series 2018 in 東京 - Tourism and SDGs - 「スポーツツーリズム ～メガイベントが日本社会を変える～	
	原田 宗彦 (早稲田大学 スポーツ科学学術院教授) 押見 大地 (東海大学 体育学部 スポーツ・レジャー マネジメント学科 講師) 山下 真輝 (株式会社JTB総合研究所 主席研究員) 伊藤 央二 (和歌山大学 観光学部 准教授)	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
9/18(火)	CTR Seminar Series 2018 - Tourism and SDGs - Vol.4 「Driving Sustainable Tourism through Data」	
	Graham Miller (和歌山大学 特別主幹教授、Executive Dean, Professor, Faculty of Arts and Social Sciences / Chair in Sustainability in Business, University of Surrey)	
9/25(火)	CTR Sustainability Unit Seminar 「Tourism lighting the Himalaya」	
	Paras Loomba (CEO/Founder, Global Himalayan Expedition) Sonal Asgotraa (Technology analysis, Global Himalayan Expedition)	
10/2(火)	CTR科研費申請勉強会	
	大井 達雄 (和歌山大学 観光学部 教授) 永井 隼人 (和歌山大学 観光学部 講師)	
10/4(木)	平成30年度文部科学省補助事業 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」 「Biodiversity of Colorful Plants in Indonesia: From Local Wisdom to Scientific Approach インドネシアにおけるカラフルな植物の生物多様性: “暗黙知”から科学的なアプローチへ	
	Leenawaty Limantara (Rector, Universitas Pembangunan Jaya)	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
10/30(火)	CTR Seminar Series 2018 - Tourism and SDGs - Vol.5 「Relationships of Japanese Soldiers and Northern Thai People	
	Amnaj Khaokhrueamuang (和歌山大学 国際観光学研究センター 講師)	
11/16(金)	CTR Seminar Series 2018 - Tourism and SDGs - Vol.6 「Dark Tourism:A route to peace and reconciliation?	
	Richard Sharpley (和歌山大学 特別主幹教授、 Professor, Lancashire School of Business and Enterprise, University of Central Lancashire)	
11/27(火)	CTR Seminar Series 2018 - Tourism and SDGs - Vol.7 「Resident Sentiment of Tourism: Construct and Model Development	
	Cathy Hsu (Chair Professor, School of Hotel & Tourism Management, The Hong Kong Polytechnic University)	
11/29(木)	Workshop 「What's Ahead and How Do We Get There?	
	Cathy Hsu (Chair Professor, School of Hotel & Tourism Management, The Hong Kong Polytechnic University)	

開催日	イベント名/講師等/ポスター	
12/1(土)	CTR Space & Mobilityユニット シンポジウムin大阪「観光からみた宇宙3」 黒田 有彩(株式会社アンタレス代表取締役) 長田 哲也(京都大学大学院 理学研究科 教授) 尾久土 正己(和歌山大学 観光学部 教授) 中串 孝志(和歌山大学 観光学部 准教授) 米澤 樹(和歌山大学 観光学部 4 回生)	
12/3(月)	公開セミナー 「2018 TedQual・観光学教育フォーラムin東京」 Edith M Szivas (International Liaising Officer, UNWTO Academy Foundation) Lisa Ruhanen (Associate Professor, Business School, University of Queensland) 轟 博志(立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 教授) 藤田 武弘(和歌山大学 観光学部 学部長、教授 国際観光学研究センター 副センター長) 加藤 久美(和歌山大学 国際観光学研究センター センター長、 観光学部 教授) 中元 一恵(和歌山大学 国際観光学研究センター エグゼクティブオフィサー)	
12/14(金)	観光教育研究セミナーin 東京 2018 Vol.2 CTR Seminar Series 2018-Tourism and SDGs- Vol.8 「観光とビッグデータ」 岩寄 隆司(第一法人営業部 法人サービス第四・ 第二担当 兼 地域協創・ICT推進室 担当課長) 長谷川 明彦(阪南大学 国際観光学部 准教授) 大井 達夫(和歌山大学 観光学部 教授)	
1/10(木)	CTR Seminar Series 2018-Tourism and SDGs- Vol.9 「人新世における自然遺産とエコツーリズム： 現場の実態を踏まえて議論する」 Abhik Charkraborty (和歌山大学 国際観光学研究センター 講師)	

開催日	イベント名／講師等／ポスター	
1/23(水)	CTR Seminar 「Mindful experience design through indigenous ecotourism」	
	陳 意玲 (台湾・国立東華大学 管理学院 観光・レジャー・レクリエーション学系 助理教授)	
1/24(木)	CTR Seminar Series 2018-Tourism and SDGs- Vol.10 「Surfing “contaminated” seas: Life and polluted leisure in the wake of Fukushima’s triple-disaster」	
	Adam Doering (和歌山大学 国際観光学研究センター 准教授)	
2/5(火)～ 8(金)	FD研修 「Active Learning in the English-medium Instruction Classroom」	
	Pamela Young (Academic Team Lead, Faculty of Extension, University of Alberta)	
3/13(水)～ 14(木)	「日本国際観光映像祭」	
		

CENTER FOR TOURISM RESEARCH

【発行】和歌山大学国際観光学研究センター
〒640-8510 和歌山市栄谷930
電話 073-457-7025
URL <https://www.wakayama-u.ac.jp/ctr/>

【発行日】2019年7月



Center for Tourism Research

2018年度 年次報告書
和歌山大学 国際観光学研究センター